

就職活動の本音

Real intention of job hunting

桑 原 賢 二
Kenji Kuwahara

はじめに

2011年3月に卒業予定の大学生の内定率は10年10月1日時点で前年同期比4.9ポイント減の57.6%となり、同調査を開始した1996年度以来過去最低を記録したことが、文部科学省と厚生労働省の発表でわかった。男女別にみると、男子は59.5% (同3.8ポイント減)、女子は55.3% (同6.3ポイント減) である。その他、短期大学の内定率 (女子学生のみ) は22.5%、(同6.5ポイント減)、高等専門学校 (男子学生のみ) は93.8% (同0.9ポイント減)、専修学校 (専門課程) 37.9% (同5.5ポイント減) となっている。

さらに10年12月1日時点では68.8%と、2カ月経過しても改善の兆しはまったく見えず、年末が迫っても3割以上が就職先が決まっていない異例の状況にきている。2年連続の過去最低の更新で、「就職氷河期」で最も厳しかった1999年同期 (74.5%) より、5.7ポイント低い水準。統計を取り始めた1996年以来、初めて7割を割り込み、学生の就職環境の厳しさが一段と鮮明になった。

学生の就職環境は依然として厳しいが、厚生省によると2010年3月卒の新卒者のうち、未就職者は約5万5000人 (前年度比約3万1000人増) にのぼっており、一度卒業すると新卒枠への応募が限定されることから既卒者の就職活動も問題になっている。厚生省は、卒業から3年以内は新卒枠で応募できるよう雇用対策法に基づく「青少年雇用機会確保指針」を改正。青少年の就職活動支援に取り組んでいる。このように、毎日、毎日頻繁に求人倍率の低さなど、新卒の就職を取り巻く環境の厳しさばかりがニュースに取り上げられている。それは果たして本当なのだろうか。以下、昨今の新卒採用環境について、一考察を行うものとする。

1. 就職活動は苦だけではない

就職活動を無事終えた2年生に「就職活動」のイメージについて尋ねると、実に7割を超える2年生が「想像よりも厳しかった・スタートダッシュで躓いた・自己分析が甘かった」と答えるという結果が出たが、その一方で「勉強になりました・成長できた」と答えた2年生も6割を超えた。さらに、約4人に1人は「楽しかった・面白かった・なんとなく終わってしまった」と答えていることから、就職活動を通じて収穫を得たり、就職活動のプロセスそのものを楽しんだ2年生も決して少なくない事がわかる。これだけ毎日、毎日厳しいと言われている環境にあっても、ポジティブに就職活動をとらえ、なんでも前向きに取り組んだ2年生がいることに指導する私も励まされる。